

平成22年3月23日

保護者の皆様へ

千葉県立松戸秋山高等学校
学校評価検討委員会

三寒四温とは言え、まだまだ寒い日もありますが、着実に春に向かいつつある今日この頃、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、過日は学校評価のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。各方面からいただいたアンケートを分析・評価いたしましたので、その結果をお知らせいたします。いただいたアンケートを元に分析し、改善方策を考えたのが「1 自己評価の結果と改善方策」で、それを元に1月28日に開かれた学校作り委員会を開き、そこでいただいた意見をまとめたのが「2 学校関係者評価の結果と学校評価のまとめ」です。

アンケートや委員会で良い評価をいただいた事項はますますのばせるように、また、ご批判をいただいた事項は改善するように努力いたしますので、よろしくお願いします。

平成21年度 学校評価実施報告書

1 自己評価の結果と改善方策

	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営 ・ 教育課程	①新しい内規がスタートしたため、委員会を3つ増やした。しかし、職員数の減少のため部は変更していない。 ②昨年度のHP更新は15回であったが、今年度は新型インフルエンザの影響もあり35回であった。 ③統合フォーラムには多くの方が参加していただき様々な意見を頂いた。しかし、学校の経営方針の広報が不十分であった。	①来年度は職員数の更なる減少が予想される。しかし、統合準備の仕事は逆に増える見込みである。このため、より効率的な学校運営が必要と考えている。 ②中学生や保護者は本校の情報を欲している。このため、HPの充実を図り、情報提供をしていきたい。 ③4月に学校経営方針等の資料を地域の方々に配付して伝えていきたい。
学習指導	①授業の取り組みについて教員と生徒の間に意識の違いがあり、思うような成果をあげられていない。 ②「自ら学び、思考し、表現する力」の育成に欠けた指導となった面が多々見うけられた。 ③1年次数学の少人数制授業は生徒の意欲を駆り立てる効果があった。	・授業の取り組みについて生徒が真剣に考える場を多く作り、学問を学ぶ態度の育成を図る必要がある。 ・数学・英語等の生徒が中学時代に苦手意識を持った教科に少人数制や能力別編成クラス等を多く取り入れ、生徒が意欲を持って取り組める体制を作っていきたい。

特別活動	①HR活動で各学期1回ルールやマナーに関するアンケートを実施した。 ②部活動では地域の保育園や老人ホームへ年1回訪問し紙芝居や絵本の読み聞かせ等の交流を行った。 ③部活動の加入率は4月の時点では47%だったが、12月には20%台に低下してしまった。	①保育園や各施設の訪問回数や交流する施設数を増やしていきたい。 ②夏休み以降に部活動を退部する生徒が増加するので各部で対策を図っていきたい。
生徒指導	①遅刻者は2学期各学年千人台と多くなり、12月末での累計は前年とほぼ同数であった。 ②6月の保護者面談では保護者にプリントを配付し、頭髪・服装をはじめ生徒指導の協力要請をした。	①遅刻については1学期減少したが、2学期増加してしまった。特に1年生の指導に重点を置きたい。 ②年2回保護者と合同の下校指導を行っているので保護者の理解・協力を得ながら生徒のマナー・ルールの向上を図る。
体育・健康 ・ 安全教育	・1学期は飲酒や交通事故に関する講演会を実施した。2学期は盲導犬に関する講演会で人権意識を高める研修を実施した。	・各学期安全教育に関する研修を開催できる体制を整える。
キャリア教育	①1学年は2回(11月に分野別説明会、2月に進路見学会)。2学年は3回(6月に卒業生の話を聞く会、11月に模擬体験授業、3月に校内進路学習会)。3学年は5回(5月に校外でのガイダンス、6月に校内での大学・専門学校説明会、他に校内で職員によるガイダンスが3回)。 ②今年度初めて1年生もインターンシップを実施する。1年生、2月の参加者は19名。2年生、夏休みの参加者は3名。 ③漢字検定は昨年まで1・2年生全員であったが、今年から3年生も全員受検。準2級合格3名、3級合格8名。ワープロ検定は、1年生全員と3年生約100名が受検。1級合格2名、準1級合格5名。	①1・2年次から生徒の進路意識を高めるため事前、事後の指導を充実させる。特に就職希望者の基礎学力を高めるための指導が大事。専門学校・大学希望者には学科・専攻の内容を充分に理解するための指導が必要。 ②幼児教育への参加希望者は集まるが、企業への参加希望者が少ない。受け入れ企業を開拓するとともに、希望者を増やす工夫が必要。 ③生徒一人一人の力量に応じて、より高い級に挑戦し、上位の級の合格者を増やすように指導していく。
特別支援教育	・定期的にスクールカウンセラーだよりを発行し、活動内容の紹介や相談についての案内を行った。12月末までの相談人数はのべ64名(生徒29, 保護者1, 職員34)であった。	・今後も継続してスクールカウンセラーや特別支援教育校内委員会を中心に活動を広げていく。

研 修	・職員研修は人権 2 回、セキュリティ 1 回、セクハラ 1 回、特別支援 1 回の計 5 回実施した。効果はあったと思う。	・回数は妥当であるとする。今後は、その受けた内容の実践が急務である。
その他 (特色ある活動等)	①年 5 回、地域主催のグランドゴルフ大会に管理職が参加した。また、本校職員が中心となりバレーボール大会を開催し、地域の方が多数参加し交流した。 ②特色ある入学者選抜で、中学校時代の実績を考慮するように改善した。 ③統合フォーラムを開催し、新校校名等の要望を聴取した。 ④総合型地域スポーツクラブの設立に向け関係者で協議し準備を進めた。	・今までは管理職が地域の行事に参加する程度だったが、今年は職員がバレーボール大会を企画し地域に呼びかけ実施した。参加した地域の方には大変好評だった。今後はこれを継続していきたい。 ・さらに、総合型スポーツクラブの設立は地域と学校との連携を深めるために極めて重要である。連携が深まれば、災害時等の非常時にも役立つと考える。

2 学校関係者評価の結果と学校評価のまとめ

	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学校経営 ・ 教育課程	H P 更新が多かったのは評価できる。今後は H P の充実をして欲しいとの要望があった。	情報発信にさらに努力していきたい。また、4 月には年間行事計画を地域住民に回覧し、学校行事への理解を図りたい。
学習指導	中学校時代に学力を十分身につけられなかった生徒に対し、基礎力を充実させるための授業の取り組みは、評価できる。今後もさらに発展、充実させて欲しいとの要望が多かった。	教員数の関係で、希望どおりに少人数制、ティームティーチングができるわけではないが、できる限りどちらも取り入れ、生徒の基礎力充実を図りたい。また、授業研修の場を多く設け、一つ一つの授業が生徒の基礎力充実につながるようにも心がけたい。
特別活動	野球部や吹奏楽部をはじめ各部活動では熱心に活動をしていると思う。大会はもちろんのこと、地域との行事にもよく参加し交流を深めている。	生徒数も減少し部活動加入率も低下傾向になっている。部員の確保を図り各部が継続して活動できる様に努力したい。
生徒指導	①登下校のマナーの悪い生徒や遅刻者も見かけるが、職員や保護者の指導の姿勢はうかがえる。 ②保護者面談も定期的実施されており、生徒指導に良い効果をもたらすことが期待できる。 ③保護者向けの配布物については保護者の手元に届かない事もあるので、良い方法を検討してもらえればありがたい。	保護者会との協力で合同の下校指導を行ったり、配布物や保護者面談を通じ生徒指導の協力をお願いしている。今後も引き続き職員と保護者の協力のもと生徒指導にあたっていきたい。

体育・健康 ・ 安全教育	交通安全や人権問題、薬物乱用防止など講演会等を実施して学校安全教育に力を入れてもらっている。生徒にはすぐ効果が出ない面もあるが継続して実施をして欲しい。	今後も各学期１回程度全校での学校安全教育を実施したい。また、学年においても必要に応じて実施したい。
キャリア教育	①生徒の進路希望を実現するためにも、基礎学力を高めることは重要である。三年間の進路指導計画の中で、検定等も活用しながら進路につながる学力向上に努めて欲しい。 ② インターンシップは生徒が職業や仕事の実際について体験し、望ましい勤労観を育成するのに役立つ。一層活性化していただきたい。	①基礎学力の充実のため三年間の総合学習の内容を再検討し、計画を立て直す。また検定を有効に利用する ②インターンシップをより多くの生徒が体験できるように進路指導部と学年職員が連携し、希望者を増やす工夫をし、また受け入れ企業を開拓していく。 ③進路見学会、模擬体験授業、卒業生の話を聞く会等のガイダンスを計画的に行っているが、生徒の意識を高めるため事前事後の指導の充実に努めていきたい。
特別支援教育	毎週金曜日にスクールカウンセラーが来校している。生徒や職員が相談できる体制がとれて良いことだと思う。	本年度よりスクールカウンセラーが配置された。今後も生徒・職員・保護者にとって有効なカウンセリングが受けられることを期待できる。
研 修	年間５回実施に対しては理解していただいた。	研修を実施した結果が大切であるので、今後は実践を重視していきたい。
その他 (特色ある活動等)	学校施設の地域への開放、統合型スポーツクラブの設立準備などに対しては理解していただいた。	来年は矢切高校との統合の前年となるので、統合後に地域とどのような触れあいができるのかを検討していきたい。